

古代アメリカ学会第8回西日本部会研究懇談会のお知らせ
「マヤ文明に関する学際的研究—最新の知見—」

第8回西日本部会研究懇談会を以下の要領で開催します。ふるってご参加下さい。また非会員の方も参加できますので、関心をお持ちの方にはぜひお声をおかけ下さい。参加の事前登録は必要ありません。

〔研究懇談会概要〕

今回の研究懇談会は「マヤ文明に関する学際的研究—最新の知見—」と題し、現在国際的な活躍をしておられる二人の若い研究者に、先スペイン期マヤ社会に関する学際的研究成果をご発表いただきます。様々な分野の視点から意見交換をしていただきたく存じますので、是非この機会にご参加ください。

発表1「古代マヤ文明南西周縁域の広域考古人骨研究：食とライフスタイルについて」

【発表者】鈴木真太郎（岡山大学大学院社会文化科学研究科）

【コメンテーター】市川彰（名古屋大学高等研究院）

【概要】

本研究はグアテマラ南海岸地方の広域人骨群を再調査し、古代マヤ文明南西周縁域の理解を進めるものである。近年、科学的理解が進む古代マヤにおいても黎明期における地域的な多様性、特にグアテマラ南海岸地方については調査が遅れており、未だ解明されていない点が多い。実際、現地グアテマラの考古学会においても、その見解には実に多様な意見が対立している。本研究は、このグアテマラ南海岸地方で、先古典期に属する複数遺跡から出土した考古人骨群（レイノサ遺跡、シンカベサス遺跡）を学際的に精査（巨視鑑定、同位体分析）し、古代マヤを代表する古典期の考古人骨群（コパン遺跡）と比較検証する。得られた差異は古代文明の持つ地域的な多様性の所見として議論を進め、また類似性については周縁域が文明黎明期において果たした役割を理解する上での知見として検討する。

発表2「メソアメリカ社会にみる“移動”の研究：イツァー族を例に」

【発表者】白鳥祐子（京都外国語大学ラテンアメリカ研究所、日本学術振興会 PD 特別研究員）

【コメンテーター】大越翼（京都外国語大学ラテンアメリカ研究所所長）

【概要】

植民地期に書かれた先住民族の出自を物語る書物によると、先スペイン期メソアメリカ社会では地理的に遠く離れたある地点から長い時間をかけて移動を繰り返し、民族の首都にたどり着くという起源神話が多くみられる。これは、王族などが「選ばれしもの」であることを主張するために、時空間の距離を用いて王族の正当性を裏打ちすることを目的に

書かれており、歴史というよりも神話的な要素が強い。「移動」を繰り返す出自物語は、先スペイン期からしばしば政治的に利用されており、マヤ社会最後の先住民であるイツァー族もまた、神話に近い年代記（チラムバラムの書）を植民地期に書き残している。この発表では、イツァー族の年代記に記されている神話的な移動の物語を、歴史学、図像学、言語学、そして考古学のデータを用いて検証する。

〔日時〕 **2019年5月18日（土）14:00～17:30**

- ・開会あいさつ
- ・発表1：14:10～15:40（発表時間1時間＋コメントおよび質疑応答30分）
- ・小休憩（15分）
- ・発表2：15:55～17:25（発表時間1時間＋コメントおよび質疑応答30分）

〔会場〕 **京都外国語大学 5号館2階 521教室**

京都外国語大学アクセスマップ <http://www.kufs.ac.jp/access/index.html>

京都外国語大学学内マップ <http://www.kufs.ac.jp/universitylife/facilities.html>

阪急京都線ご利用の場合は、「西院」駅から西へ徒歩15分。西大路四条通りに面する正門からお入りいただき、当日学内に設置されております「古代アメリカ学会第8回西日本部会研究懇談会」の立て看板を目印に5号館までお越してください。

地下鉄東西線ご利用の場合は、「太秦天神川」駅から天神川通りを南へ徒歩約10分。天神川通り左手に5号館が見えてまいりますのでエレベーターで2階へお越してください。

主 催：古代アメリカ学会

連絡先：西日本部会幹事 大越 翼 t_okoshi@kufs.ac.jp

古代アメリカ学会事務局 jssaa@sa.rwx.jp